

令和7年12月23日

武蔵野大学における 質保証・質向上の取り組み

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World



武蔵野大学 副学長/理事
北條 英勝

1 武蔵野大学について

- ◆**名称**：武蔵野大学
- ◆**設立**：1924年 浄土真宗本願寺派 宗門校
- ◆**創立者**：高楠 順次郎
- ◆**建学の理念**：「四弘誓願」（しぐぜいがん ※佛教の根本精神）
- ◆**学長**：小西 聖子
- ◆**キャンパス**：有明キャンパス/武蔵野キャンパス
- ◆**学生数**：10,867名（2025年5月現在 ※学部生のみ）
- ◆**学部・学科構成**：13学部21学科

日本文学文化学科・グローバルコミュニケーション学科・日本語コミュニケーション学科・
グローバルビジネス学科・法律学科・政治学科・経済学科・経営学科・会計ガバナンス学科・
アントレプレナーシップ学科・データサイエンス学科・人間科学科・社会福祉学科・ウェルビーイング学科・
サステナビリティ学科・数理工学科・建築デザイン学科・教育学科・幼児教育学科・薬学科・看護学科

上：有明キャンパス 下：武蔵野キャンパス



歴史・沿革

1924 「武蔵野女子学院」を創立	1929 高楠順次郎博士、東京都中央区築地に現在の西東京市に移転（武蔵野キャンパス）	1965 武蔵野女子大学を設立（文学部）	2003 2004 男女共学化、薬学部を開設	2006 武蔵野大学に校名を変更	2011 看護学部を開設	2012 人間科学部を開設	2014 法学部・経済学部を開設	2015 工学部を開設	2016 グローバル学部を開設	2019 データサイエンス学部・経営学部を開設	2021 アントレプレナーシップ学部を開設	2024 ウェルビーライフ学部を開設	2026 創立百周年 通信教育部国際データサイエンス学部を開設予定
----------------------	-----------------------------------------------	-------------------------	------------------------------	---------------------	-----------------	------------------	---------------------	----------------	--------------------	----------------------------	--------------------------	-----------------------	------------------------------------------------

2000年代以降、不断の改革実行により急速に規模を拡大

建学の精神と3ポリシー（1）

建学の精神：佛教の根本精神である「四弘誓願」を基礎とする人格教育

四弘誓願（しぐぜいがん／ほとけのねがい）

生きとし生けるものが 幸せになるために
むさぼり・いかり・おろかさに 流されず
この世界 あるがままの真実に 学び
人格向上の道を ともどもに 歩みたい



ブランドステートメント

「世界の幸せをカタチにする。」

四弘誓願の理念を具現化するための決意表明

建学の精神と3ポリシー (2)

建学の精神に基づくブランドステートメント：

「世界の幸せをカタチにする。」

具現化

全学ディプロマ・ポリシー (DP) :

「多様な人々のなかで「アクティブな知」を獲得し、創造的に思考・表現する力を備えて、世界の課題に立ち向かうため、以下の力を身につける」

- | | |
|--------------|--------------------------|
| 1 [知識・専門性] | 学びの基礎力を基盤とした専門能力 |
| 2 [関心・態度・人格] | 他者と自己を理解し、自発的に踏み出す力 |
| 3 [思考力・判断力] | 課題を多角的に捉え、創造的に考える力 |
| 4 [交感力・発信力] | 多様な人々のなかで、自らの考えを表現・発信する力 |

学科カリキュラム・ポリシー (CP)

全学カリキュラム・ポリシー (CP)

▶教育活動

学科アドミッション・ポリシー (CP)

全学アドミッション・ポリシー (AP)

▶学生受け入れ

アセスメント・ポリシー

▶学修成果測定・教育改善

■アセスメント・ポリシー

武蔵野大学では、内部質保証制度の一環として、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの3ポリシーに基づいて、機関レベル（大学全体）、教育課程レベル（学部・学科・研究科等）、科目レベル（授業・科目）の3つのレベルで、学修成果等を測定・評価し、その結果を教育の改善につなげていく。

1. 機関レベル（大学全体）

学生の進路（就職率/希望進路達成率、資格・免許を活かした専門領域への就職率、進学率等）、学生生活実態調査、卒業時アンケート等から全学的な学修成果の達成状況を測定・評価する。検証結果は、武蔵野大学の現状把握、全学的な教育改革・改善、学生の学修支援・生活支援等の改善に活用する。

2. 教育課程レベル（学部・学科・研究科等）

各学部・学科・研究科等における学生の進路（就職率/希望進路達成率、資格・免許を活かした専門領域への就職率、進学率等）、卒業要件達成の状況（単位取得状況、GPA等）、資格・免許の取得状況、外部客観テスト（TOEIC等）、授業評価アンケート、学生生活実態調査、**学科DPループリック評価**等から教育課程全体を通じた学修成果の達成状況等を測定・評価し、カリキュラムの効果を検証する。

3. 科目レベル（授業・科目）

シラバスで提示された授業等科目的評価基準に基づく成績評価、授業リフレクション（授業評価アンケート）から、科目ごとの学修成果の達成状況を測定・評価する。

■学科DPの達成度をループリックで評価

- 各学科のディプロマ・ポリシー(DP)に基づく教育課程の効果を継続的に検証するため、学科DPループリック評価表を用いて学生(3・4年生)のDP到達度を測定している(薬学科は5・6年生)。
- 学生が自身のDP到達度を自己評価とともに、ゼミ担当教員が個々の学生のDP到達度を評価。
- 学科DPループリック評価の実施は、教育の質保証のための全学的な取り組みとして重要性を増しており、内部質保証の一環として、第3期認証評価で高い評価をえた。

経営学科ループリックtest

Sample

アンケートにご協力ください。

Q1 DP1 【知識・専門性】教養基礎学力
<学科ディプロマポリシー>
自ら教養・基礎学力を修得し、自立的・主体的に学ぶことができる【教養・基礎学力】
経営・会計・金融等の分野における基礎学力を修得している【基礎学力】*

<レベル4> 経営・会計・金融等、各ゼミで専門的に学習する分野における基礎学力を修得しており、自立・主体的に発展させることができる。

<レベル3> 経営・会計・金融等、各ゼミで専門的に学習する分野における基礎学力を修得している。

<レベル2> 経営・会計・金融等、各ゼミで専門的に学習する分野における基本的な内容が理解できている。

<レベル1> 経営・会計・金融等、各ゼミで専門的に学習する分野における基本的な内容が理解できていない。

Back

Next

1 1 10

育成する人材像

■武蔵野大学が教育の実践により達成したいのは・・

仏教精神を根幹として学識、情操、品性ともにすぐれた人格の育成

武蔵野大学の「教育研究上の目的」より

ウェルビーイング社会の創造及び形成に貢献する人材の育成・輩出

学校法人武蔵野大学第二期中期計画（2025年度～2029年度）より



上記を目指して

「スチューデント・サクセス」の実現を推進する

～スチューデント・サクセスとは～

- ・個々の学生が目指す将来像（なりたい自分）や目標達成等の自己実現に向けて、成長実感・達成感・納得感が得られること **（個としてのサクセス）** ≠ **自信・成長実感**
- ・建学の精神に基づく本学での特色ある学びを通して、未来のウェルビーイング社会の創造及び形成に貢献するスキル・能力・マインドを習得すること **（社会におけるサクセス）** ≠ **DP**

5 人材育成に向けた取り組み例（1）

（1）独自の学修スタイル「響学スパイラル」の実践

あらゆる人と感性・知恵・響創力を響き合わせ、

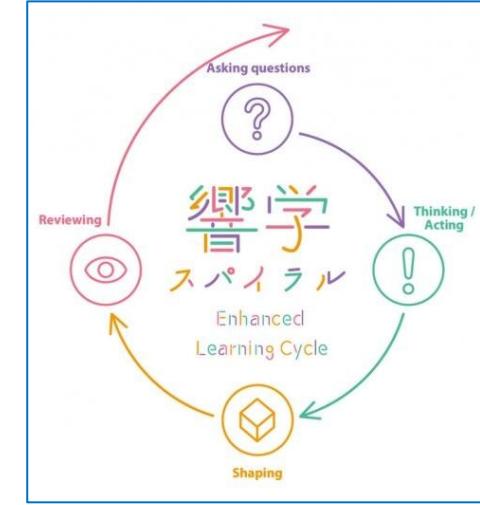
「問う」→「考動する」→「カタチにする」→「見つめ直す」の4つのステップを
繰り返しながらともに学び、成長していく学修スタイル。

⇒すべての学部・学科で導入し、学生の成長をサポートしている。

（2）アクティブな知を育む共通基礎過程「武蔵野INITIAL」

全学生が1年時に履修する、全学共通の基礎課程。各学科での学びにつなげるための基礎力を身につける。

- 問い合わせを立て、情報を収集・分析して、最適と思われる「答えを提案する」
- 自ら課題に気づき問題意識を持つために「視野を広げる」
- 情報を収集・分析するための「スキルを身に付ける」
- 答えをカタチにするための「行動力を持つ」



左記を学び、世界の諸問題を担い
解決できる人材となる土台を形成

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World

人材育成に向けた取り組み例(2)

(3) 学生の学修意欲に応える「副専攻」の充実

AI活用エキスパートコース

データサイエンスや人工知能を活用する専門知識とスキルを学ぶ。主専攻で学んだ専門知識と副専攻で学んだ**AI活用力を用いて、困難な課題を解決しより良い未来を生み出す人材を育成。**

仏教プラクティスコース

建学の精神の根幹をなす仏教を、「学（学問）」と「行（実践）」の2つのアプローチから学ぶ。現代社会の直面する**課題の解決に、仏教の視座が有効な役割を果たす可能性**を追求。

(4) 地方や社会の課題に対峙する「フィールド・スタディーズ」

大学での学びを、社会との確かな接点を持つものとするため、**キャンパスを出て広く国内外で経験を積む**、武蔵野大学独自のプログラム。**全学部の1年生必修**。国内外60以上のプログラム※から選択可能。

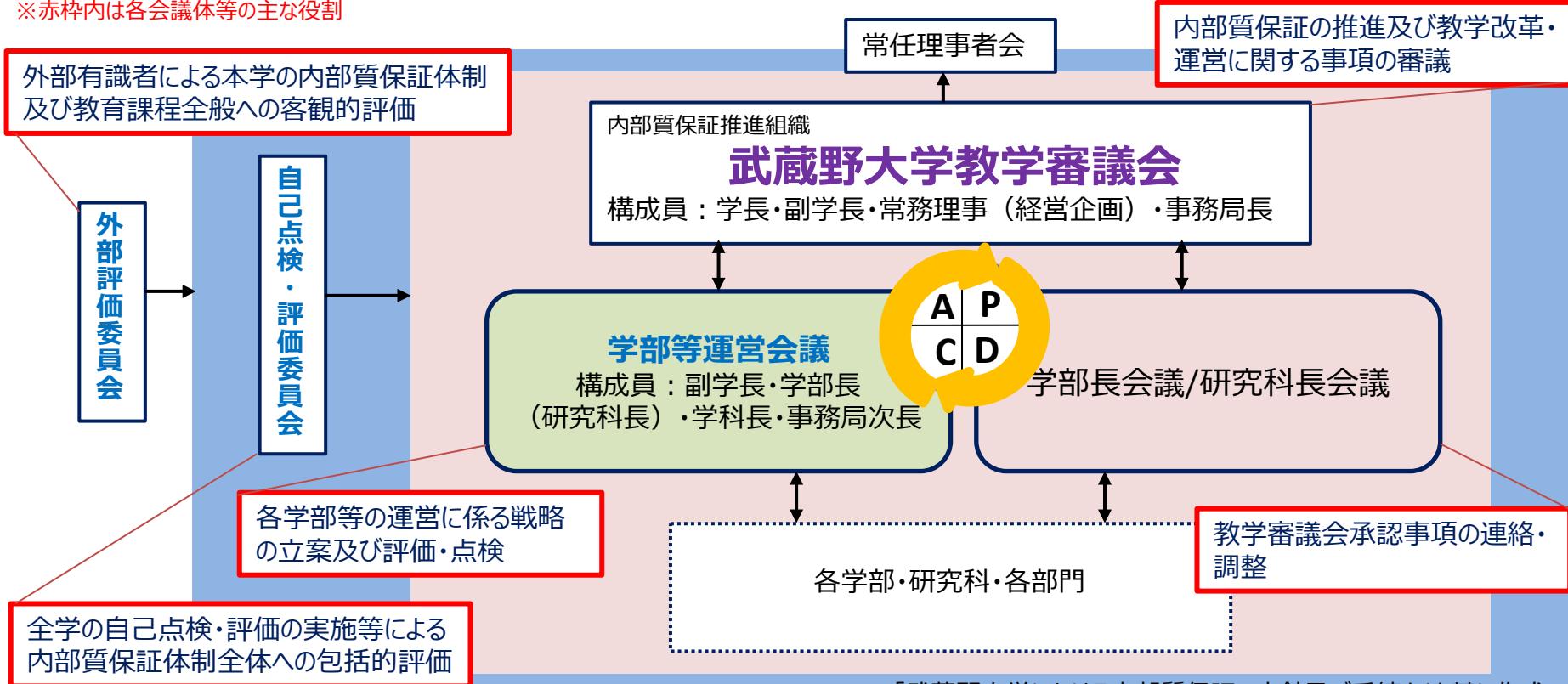
※例：地域活性化事業の企画など。宿泊型・通学型・海外型の3種類がある。



教育の質保証と向上（1）～武蔵野大学における内部質保証体制～

■各会議体等が基点となり、3ポリシーに基づく教育活動のPDCAを推進

※赤枠内は各会議体等の主な役割



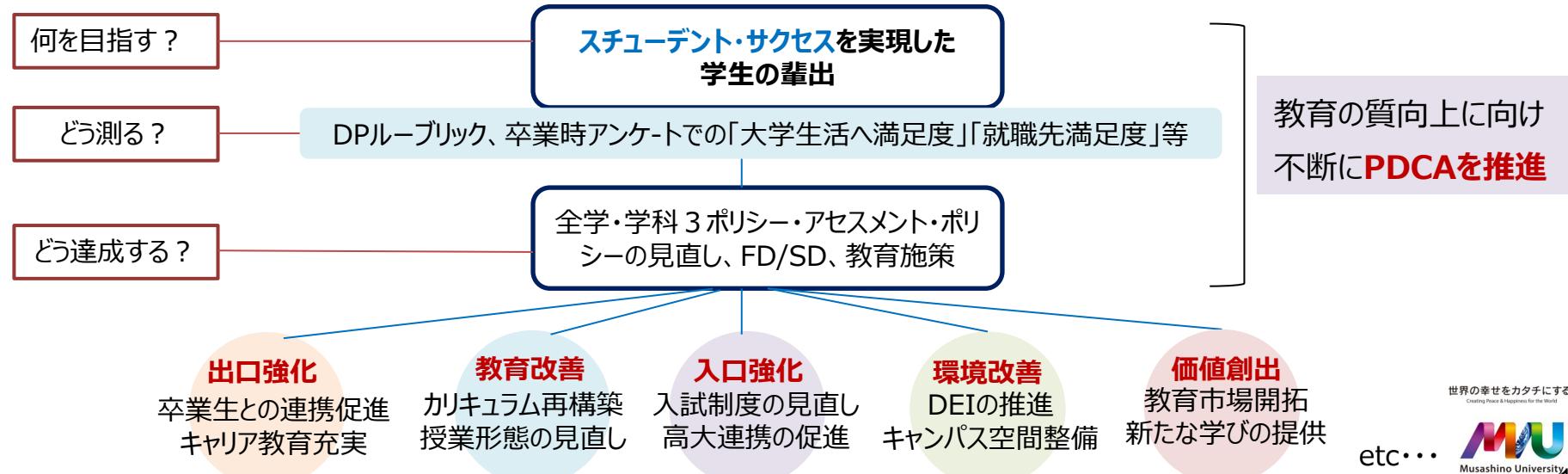
（1）中長期計画の推進によるスチューデント・サクセスの実現

「学校法人武蔵野大学第二期中期計画」（2025年度～2029年度）に基づき、

スチューデント・サクセスを実現するための事業計画を推進し、さらなる教育の質向上を目指す。

これらの取組をとおして、武蔵野大学ならではの独自性ある教育研究方法を追求していく。

<第二期中期計画の推進イメージ>



（2）響学開発センター主導による教育改善の取組推進

教育課程および授業レベルでの質保証・質向上にあたり、「響学開発センター」が主管となって教学IRの情報収集および分析、ファカルティ・ディベロップメント（FD）への有機的な連携を実践し、教育の質向上を図っていく。

【参考】響学開発センターの目的

建学の精神に基づく教育目標を実現するための、調査・分析及びそれに基づく提案を行い、教育改革を促進するとともに、学修者の主体的な学びの姿勢を引き出し知識・能力を涵養する学修の仕組みづくりに寄与する。

＜参考：武蔵野大学におけるIR調査の結果を基とした授業改善の流れ＞



(3) 学生参加・参画型の取組を推進

■ 正課課程だけではなく、学生生活をとりまく学内環境の改善を進めるため、学生参加・参画型の改善活動として、学生FD、学生参加ワークショップなどを推進。

- 学生FD（2019年度：全学学生FDを開始（テーマ：「理想の授業について考えよう」）。
2020年度以降は各学科のFDにて4年に1度以上実施。2024年度以降は各学科のFDで毎年度実施を推奨。）
- 学生参加ワークショップ（2025年度：テーマ「キャンパスの居場所、居住性を考える。」）

